

科目名	介護過程 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	江下 馨		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	介護老人保健施設において 介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	各領域で学んだ専門的な知識と技術を統合し、身の前の利用者に適切な支援を提供できる力を養う。 講義内容と実習とを関連付けて、援助の根拠である利用者の状態理解に繋がられるよう事例を通し検討する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					実習 I (後期)10月、担当利用者の情報収集ができる。	
	○					実習 II、介護過程の展開方法を理解し、介護計画の立案できる。	
	○		○			グループで事例検討し、意見をまとめ発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護過程						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護過程とは 意義と目的 介護過程のプロセス			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	2	介護過程の全体像 生活支援における介護過程の必要性			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	3	アセスメントの視点 1 事例からみる情報収集①			視覚教材はメモを取り、整理する事		
	4	アセスメントの視点 2 事例からみる情報収集②			視覚教材はメモを取り、整理する事		
	5	アセスメントの視点 3 情報収集方法のまとめ			視覚教材はメモを取り、整理する事		
	6	実習 I (後期) 利用者の全体像 まとめ			実習 I (後期)利用者全体像持参		
	7	アセスメント(情報収集の意義) 1			実習 I (後期)利用者全体像持参		
	8	アセスメント(情報収集の意義) 2			実習 I (後期)利用者全体像持参		
	9	情報収集とICF			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	10	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)1			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	11	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)2			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	12	アセスメントの実際 1 生活像を組み立てる			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	13	アセスメントの実際 2 関連づけ			教科書とプリント、板書を関連付けること		
	14	事例検討 1 アセスメントから解釈・関連付け・統合化 1			実習 II 書類と関連付けること		
15	事例検討 2 アセスメントから解釈・関連付け・統合化 2			実習 II 書類と関連付けること			
評価方法	(1)定期試験(筆記) (2)事例検討発表 (3)レポート提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	レポート		◎				20%
	事例検討 発表		○		◎		30%
履修上の注意	毎時間ファイリングを行う。事例検討は積極的に参加する。注意しても15分以上の著しい居眠り等がみられた場合は欠課とする。						

科目名	コンピュータ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	平野 久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	Excel、PowerPointの基本操作から学び、表計算、プレゼンテーションについて、知識を習得していく。複数のアプリ間でのデータを共有し、応用できる力を身に付け、実践的に役立てていけるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					Excel、PowerPointなどを使用し、データ管理やプレゼンテーションを作成することができる	
		○				練習問題を解くことによって理解度を確認し、処理、作成ができる	
			○			ブラインドタッチを習得し、10分間で300文字以上の入力ができる	
				○		用途に応じて適切なソフトを使用し、報告書の作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 よくわかるWord2016 & Excel2016 & PowerPoint2016 改訂版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Excelの概要・起動・画面構成・データ入力・オートフィル機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	関数・絶対参照・表の書式・行や列の操作・印刷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	グラフ機能の概要・円グラフ・縦棒グラフの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	データベース機能の概要・データの並べ替え・抽出・条件付き書式			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	各章の練習問題			各章の練習問題で復習をします		
	6	Excelの表をWordの文書に貼り付ける			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	差し込み印刷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	Wordの文書をPowerPointのプレゼンで利用する			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	総復習			後期試験を実施するので、総合問題で復習します		
	10	試験(実技・筆記)					
	11	PowerPointの復習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	PowerPointの復習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	総復習			総合問題で復習します		
	14	課題作成			実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題作成をします		
15	課題作成			実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題作成・提出をします			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)課題を作成し発表する。(3)定期試験(実技・筆記)を実施する。以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テスト		○				15%
	宿題・レポート						
	発表・作品		◎		○		20%
タイピング			○			15%	
履修上の注意							

科目名	こころとからだのしくみⅡ①						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	障害や加齢による心身の変化や病態を理解するための基盤として正常な人体における解剖生理学の知識を習得し、介護サービスを提供する際の根拠を理解する。この授業は介護を必要とする人々の増加、ニーズの多様化の中で、専門性の基礎となる。心理学や医学一般の知識と関連づけて、利用者の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		生活動作に関連したからだのしくみを理解できる。	
		○		○		心身の機能低下が生活動作に及ぼす影響について説明できる。	
		○		○		医療関係職種との連携・協力のポイントを説明できる。	
	○			○		生活動作に関連した代表的な疾患とその特徴について述べる事が出来る。	
	○		○			介護サービスの提供における安全への留意点をその根拠とともに説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ」中央法規 「しくみと病気がわかる からだの辞典」 「7訂介護福祉用語辞典」中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	身じたくに関連したしくみ : なぜ身じたくをととのえるのか 毛髪・爪の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	2	身じたくに関連したしくみ : 口腔の清潔のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	3	身じたくに関連したしくみ : 眼のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	4	身じたくに関連したしくみ : まとめ 確認テスト 移動に関連したしくみ : 移動のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5	移動に関連したしくみ : 心身の機能低下が移動に及ぼす影響① 褥瘡 廃用症候群			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	6	移動に関連したしくみ : 心身の機能低下が移動に及ぼす影響② 移動に影響を及ぼす疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	7	移動に関連したしくみ : 心身の機能低下が移動に及ぼす影響③ 福祉用具 利用者の変化の気づきと対応 単元テ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	8	移動に関連したしくみ : 福祉機器を知る①福祉機器展 見学			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	9	移動に関連したしくみ : 福祉機器を知る②グループワーク・発表準備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	10	移動に関連したしくみ : 福祉機器を知る③発表準備・発表			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	11	入浴のしくみ : 入浴・清潔保持のしくみ 入浴・清潔保持の意義について 皮膚のしくみ 発汗の			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	12	入浴のしくみ : 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 皮膚の症状について 身体機能が入浴に及ぼす影響・疾患での			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておくこと		
	13	入浴のしくみ : 変化の気づきと対応 入浴が身体に及ぼす影響・観察ポイント・医療との連			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	14	まとめ			重要ポイントを再度確認するため、これまでのノート やプリント類を事前に整理しておくこと		
15	後期試験対策			重要ポイントを再度確認するため、これまでのノート やプリント類を事前に整理しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で項目ごとに小テストを実施する。正答率80%未満であれば補講および再テストを実施する。 (2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業には積極的に参加すること 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
出席状況				○		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	コミュニケーション技術						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	江下 馨		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答することができる。	
			○	○		科目内小テストで6割以上得点できる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コミュニケーション態度に関する基本技術 受容・共感・距離			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	2	目的別コミュニケーション技術 動機づけ			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	3	集団におけるコミュニケーション技術 意義・留意点			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	4	コミュニケーション障害への対応の基本			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	5	家族への助言・指導・調整 支援する視点			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	6	家族関係と介護ストレスへの対応 介護への影響			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	7	介護におけるチームのコミュニケーション			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	8	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術 1			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	9	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術 2			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	10	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術 3			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	11	事例検討に関する技術			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	12	情報の活用と管理のための技術			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	13	コミュニケーション技術 前後期 まとめ 1			前期ファイルを整理して持参		
	14	コミュニケーション技術 前後期 まとめ 2			前期ファイルを整理して持参		
15	コミュニケーション技術 前後期 まとめテスト・解説			前期ファイルを整理して持参			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	小テスト	○					50%
履修上の注意							

科目名	医療的ケア(講義)					
科目名(英)						
単位数	3単位	時間数	51時間	担当者	角屋 佳代	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科1年					
授業概要	介護福祉士として医療的ケアを実施するための基本研修修了を目的とした科目である。本講義では基本講義までを修了し、2年生での基本演習につなげる。授業では医療的ケアが必要なひとの心身の状態を理解し、医療的ケアの留意点や手順について理解する。					
授業形式	講義 ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					介護福祉士による医療的ケアが認められるようになった背景や求められる資質について述べる事が出来る
	○	○				医療的ケアに際して必要な医療職との連携について説明できる。
	○	○				安全な医療的ケアの取り組みについて説明できる。
	○		○			感染予防のための手洗い手順を理解し実施できる。
	○					健康状態を把握するための項目について述べる事ができる。
	○					呼吸のしくみとはたらき、呼吸困難のもたらす苦痛や障害、喀痰のためのケアについて説明できる。
	○					喀痰吸引について必要な物品、手順について説明できる。
	○					急変時の対応と事前対策について述べる事ができる。
	○					消化器のしくみとはたらき、消化器の主な症状について述べる事ができる。
○					経管栄養について必要な物品、手順について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	メヂカルフレンド社 医療的ケア 中央法規 こころとからだのしくみ 「しくみと病気がわかる からだの辞典」					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション なぜ医療的ケアを学ぶのか			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	2	人間と社会			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	3	保健医療医療制度とチーム医療①			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	4	保健医療医療制度とチーム医療② 安全な療養生活①			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	5	安全な療養生活②			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	6	安全な寮生活③ 感染予防と清潔保持①			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	7	感染予防と清潔保持②			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	8	健康状態の把握①			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	9	健康状態の把握②			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	10	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」①呼吸のしくみと働き			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	11	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」②いつもと違う呼吸状態			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	12	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」③器具と機材 清潔の保持			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	13	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」④人工呼吸器と吸引			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	14	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑤子どもの吸引			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	15	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑥利用者や家族の気持ち			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	16	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑦吸引によって生じる危険			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	17	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」⑧急変・事故発生時の対応			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	18	喀痰吸引の実施の手順と留意点①			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	19	喀痰吸引の実施の手順と留意点②			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
	20	喀痰吸引の実施の手順と留意点③			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく	
21	喀痰吸引の実施の手順と留意点④			事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく		

	22	喀痰吸引の実施の手順と留意点⑤	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	23	喀痰吸引の実施の手順と留意点⑥	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	24	高齢者および障害児・者の「経管栄養」①消化器のしくみとはたらき	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	25	高齢者および障害児・者の「経管栄養」②消化器の主な症状	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	26	高齢者および障害児・者の「経管栄養」③経管栄養とは	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	27	高齢者および障害児・者の「経管栄養」④経管栄養の留意点	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	28	高齢者および障害児・者の「経管栄養」⑤必要なケア	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	29	高齢者および障害児・者の「経管栄養」⑥実施の報告及び記録	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	30	経管栄養の実施手順と留意点①	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	31	経管栄養の実施手順と留意点②	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	32	経管栄養の実施手順と留意点③	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	33	経管栄養の実施手順と留意点④	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	34	経管栄養の実施手順と留意点⑤	事前にテキストに目を通しておく 授業後は学習内容を復習しておく				
	評価方法	(1)授業の中で小テストを5回以上実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		○	○				50%
小テスト		○	○				30%
宿題・レポート		○	○				10%
出席状況					○		10%
履修上の注意	全講義への出席が必要。小テストでは9割以上の正答率が必要。9割に満たなければ再テストを繰り返して実施する。出席状況には授業態度も含まれる。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	介護総合演習Ⅰ					
科目名(英)						
単位数	6	時間数	90	担当者	大島夕子	
実施年度	2019	実施時期	通年(後期分)	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科1年					
授業概要	本科目においては、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことを目的とする。各段階の実習ごとに設定された実習目標達成のために、実習前、実習中、実習後の学びを行う。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					自己の実習施設の施設概要について説明できる。
	○	○		○		各段階における実習目標達成のための具体的な取り組みを整理し伝えることができる。
	○	○				実習後、自己の実習を振り返り、目標の達成度、今後の課題を文章化できる。
	○	○		○		実習後、実習報告会にて、実習の学びをまとめ発表することができる。
テキスト・教材 参考図書	介護総合演習・介護実習					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	第1段階(後期)実習準備				
	2	第1段階(後期)実習準備				
	3	第1段階(後期)実習準備			配属施設について概要を調べておく	
	4	第1段階(後期)実習準備				
	5	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	6	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	7	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	8	第1段階(後期)実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	9	第1段階(後期)実習準備				
	10	第1段階(後期)実習 帰校日指導			担当利用者の全体像を整理しておく	
	11	第1段階(後期)実習 帰校日指導			担当利用者の全体像を整理しておく	
	12	第1段階(後期)実習振り返り				
	13	第1段階(後期)実習振り返り			発表原稿・PP作成	
	14	第1段階(後期)実習振り返り			発表原稿・PP作成	
	15	第Ⅱ段階実習準備				
	16	第Ⅱ段階実習準備			配属施設の概要を調べておく	
	17	第Ⅱ段階実習準備				
	18	第Ⅱ段階実習準備				
	19	第Ⅱ段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	20	第Ⅱ段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	21	第Ⅱ段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	22	第Ⅱ段階実習準備			施設へのアクセス・確認事項を整理しておく。 実習前面接の準備をしておく。	
	23	第Ⅱ段階実習準備				
	24	第Ⅱ段階実習 帰校日指導			利用者の全体像の整理をしておく。	
25	第Ⅱ段階実習 帰校日指導			利用者の全体像の整理をしておく。		

	26	第Ⅱ段階実習 帰校日指導	利用者の全体像・課題の抽出をしておく。				
	27	第Ⅱ段階実習 帰校日指導	利用者の全体像・課題の抽出をしておく。				
	28	第Ⅱ段階実習振り返り					
評価方法	(1)授業中のレポート作成(2)実習前面接(態度・実習への意欲)(3)実習報告会(準備・発表)により評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		○		30%
	発表・作品		○		○		50%
	身だしなみ・意欲・態度				○		20%
履修上の注意							

科目名	現代社会と福祉						
科目名(英)	Contemporary society and the welfare						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	伊東良輔		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	社会福祉の原理や概念、我が国の福祉の歴史を学び、現代社会の福祉政策に関して広い視点を持つことができるソーシャルワーカーの素地となる知識を獲得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					対入援助の根拠となる理論と変遷について学び、ソーシャルワークの概要を説明することができる。	
		○				授業で獲得した知識を実践場面でどのように活用できるか説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉政策の論点Ⅰ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	福祉政策の論点Ⅱ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	福祉政策の論点Ⅲ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	福祉政策における政府の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	福祉政策における市場の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	福祉政策における国民の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	福祉供給部門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	福祉供給過程			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	福祉利用過程			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	福祉政策と教育政策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	福祉政策と住宅政策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	福祉政策と労働政策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	相談援助活動と福祉政策の関係			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ			後期授業内容を各自まとめておくこと			
評価方法	出席状況、授業への参加意欲、定期試験(筆記)を実施する。 下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	授業態度(出席率・参加度)	○			◎		50%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	人間関係とコミュニケーション						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮本 賀世子・江下 馨		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	生活支援は、介護職と利用者、その家族との関係作りから始まる。 前期、介護職として人間を理解する必要性を学び、後期、人間関係を構築する必要性、関係作りの為の技法を演習を通して習得する。 また、自身の傾向を理解し、アプローチを工夫することで利用者の生活の質が大きく左右されることを知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		サービス接遇検定3級に合格するレベルに到達する	
	○					国家試験問題に解答できる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 人間の理解 サービス接遇受験ガイド 3級 サービス接遇検定実問題集3級						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	I OR 介護サービスとサービス接遇を学ぶ意味・必要な要件・従業要件					
	2	II 専門知識 サービス知識・従業知識				授業ノートを作成し、授業内容をまとめる	
	3	III 一般知識 社会常識(ことわざ・慣用句・伝統的な呼び方・物の数え方)時事問題				授業ノートを作成し、授業内容をまとめる	
	4	iv 対人技能 話し方・言葉遣い・練習問題と解説				授業ノートを作成し、授業内容をまとめる	
	5	iv 対人技能 人間関係・接遇知識・身だしなみ・練習問題と解説				授業ノートを作成し、授業内容をまとめる	
	6	V 実務技能 環境整備・金銭管理・社交業務・練習問題と解説				授業ノートを作成し、授業内容をまとめる	
	7	サービス接遇検定3級過去問題 サービススタッフ資質・専門、一般知識・実務技能				誤った問題の復習をしておく	
	8	V 実務技能 問題処理 過去問題点記述				誤った問題の復習をしておく	
	9	V 実務技能 記述問題説明				誤った問題の復習をしておく	
	10	自分と他者理解 自己開示と相互理解				次回、確認テストの復習をしておく	
	11	対人関係におけるコミュニケーション コミュニケーションの構造 確認テスト				次回、確認テストの復習をしておく	
	12	組織におけるコミュニケーション 組織で求められるコミュニケーション 確認テスト				次回、確認テストの復習をしておく	
	13	介護実践におけるチームマネージメント 確認テスト				次回、確認テストの復習をしておく	
	14	ケアを展開するためのチームマネージメント 多職種協働 確認テスト				単元ごとの確認テストの復習	
15	国家試験問題 過去問と解説				試験問題の解説ができるようになっておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)サービス接遇検定 模擬問題を実施する (3)サービス接遇検定3級を受験する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						50%
	模擬問題						40%
	検定結果						10%
履修上の注意	授業ノートを作成する。						

科目名	生活支援技術ⅡA						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期分)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した排せつとは何かを理解し自立に向けた排泄介助の援助方法を習得するとともに、排せつに関する基礎知識を学ぶ。 ・清潔の保持のための全身清拭の意義と留意点を理解し、実際の援助方法を習得する。 						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自立した排せつ介護について説明することができる。	
			○	○		排せつに関する援助を安全・安楽、プライバシーの保護に留意し行うことができる。	
	○	○				全身清拭の意義と留意点について説明することができる。	
			○	○		全身清拭の援助を安全・安楽、プライバシーの保護に留意し行うことができる。	
○	○				排せつ・全身清拭に関する物品・専門用語の説明ができる。		
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自立した排せつとは			教科書の該当範囲を読んでおく		
	2	排せつ方法の選択・排せつに関する福祉用具の理解			教科書の該当範囲を読んでおく		
	3	トイレでの排せつの介護方法			教科書の該当範囲を読んでおく		
	4	ポータブルトイレでの排せつの介護方法			教科書の該当範囲を読んでおく		
	5	立位パッド交換の介助			教科書の該当範囲を読んでおく		
	6	尿器差し込み便器での排せつの介助			教科書の該当範囲を読んでおく		
	7	おむつでの排せつの介助			教科書の該当範囲を読んでおく		
	8	実技試験①			授業内容の復習(演習用プリント)		
	9	実技試験②			授業内容の復習(演習用プリント)		
	10	頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応			教科書の該当範囲を読んでおく		
	11	多職種連携			教科書の該当範囲を読んでおく		
	12	清潔の保持の介助(全身清拭の留意点)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	13	全身清拭演習			授業内容の復習(演習用プリント)		
	14	授業内容の復習			授業内容の復習		
15	定期試験対策			授業内容の復習			
評価方法	(1)学期末定期試験(筆記試験)で評価。(2)授業内実技試験にて評価。(3)演習授業の際の援助者としての姿勢、態度、言葉使いを評価。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	実技試験			○			30%
	演習態度				○		20%
履修上の注意	演習質の授業では、実習服を着用すること。清潔な身だしなみで臨むこと。実習服が準備できていない場合は見学とする。						

科目名	認知症の理解 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	認知症とは何かについて、脳のしくみと認知症の人の心理から理解する。また、認知症の中核症状、BPSD及び原因疾患とその特賞について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				認知症とは何かを脳のしくみから説明できる。	
	○	○				中核症状・BPSDについて、症状の説明ができる。	
	○	○				認知症の原因疾患とそれに伴う症状の説明ができる。	
	○	○				認知症により生じる生活障害をふまえた生活援助の展開ができる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座13 認知症の理解 介護福祉士用語辞典						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	認知症とは何か			教科書の該当範囲を読んでおく		
	2	脳のしくみ			教科書の該当範囲を読んでおく		
	3	認知症の人の心理			教科書の該当範囲を読んでおく		
	4	中核症状(記憶・見当識・遂行機能・空間認知)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	5	中核症状(視覚認知・社会的認知・失語、失認、失行・病識低下)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	6	生活障害(IADL・ADL・BPSD)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	7	授業内容復習			今までの授業内容を復習しておく		
	8	認知症の診断と重症度			教科書の該当範囲を読んでおく		
	9	認知症の原因疾患(アルツハイマー・脳血管・レビー小体)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	10	認知症の原因疾患(前頭側頭型その他)			教科書の該当範囲を読んでおく		
	11	若年性認知症			教科書の該当範囲を読んでおく		
	12	授業内容復習			第8回から第11回の授業内容を復習しておく		
	13	認知症の治療薬			教科書の該当範囲を読んでおく		
	14	認知症の予防			教科書の該当範囲を読んでおく		
15	試験対策			ノート・プリント・テキスト授業内容の復習			
評価方法	(1)後期定期試験にて評価する。(2)授業内で確認テストを2回実施する。(3)ノート提出1回(プリントは整理させているか、ノート整理ができているか確認) 成績評価基準は、、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				40%
	ノート提出				○		10%
履修上の注意							

科目名	発達と老化の理解						
科目名(英)	Human Development and Aging						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	前期で学習した加齢に伴う心理的变化や身体的変化の特徴に加え、高齢者に多い疾患の基礎知識を習得することで、日常生活に及ぼす影響を考える。また健康寿命を延伸するための取り組みについて知り、疾病予防や合併症予防のための留意点について理解する。これらの知識から高齢者への全人間的な生活支援へつなげることを目的とした授業である。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					加齢による身体変化の特徴について説明することが出来る。	
	○					加齢による身体変化が及ぼす心理的影響について説明することが出来る。	
	○	○				高齢者に多い疾患の特徴と日常生活に注意点を説明出来る。	
		○		○		生活支援の場面において高齢者の心理的、身体的特徴へ配慮できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「障害の理解」「社会の制度と理解」 ミネルヴァ書房「社会福祉小六法」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	健康長寿に向けての健康			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	2	高齢者の症状・疾患の特徴①			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	3	高齢者の症状・疾患の特徴②			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 骨格系 筋系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	5	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 脳 神経系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 皮膚 感覚器系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 循環器系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 呼吸器系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥ 消化器系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦ 腎・泌尿器系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧ 内分泌・代謝系			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑨ 歯・口腔疾患			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑩ 悪性新生物・感染症			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	14	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑪ 精神疾患・その他			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
	15	保険医療職との連携			事前にテキストに目を通しておくこと 学習内容は必ず復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回以上実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)出席状況には授業への参加態度(居眠り・私語・グループワークや発表の様子)。以上を下記の観点・割合で評価する。)成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						